

## 第4章 基本方針

### 第1節 基本理念

「史跡亀ヶ岡石器時代遺跡・田小屋野貝塚保存活用計画」の大綱・基本方針を踏襲し、基本理念を次のとおりとする。

集う、交わる、未来へつなぐ ～屏風山が育んだ縄文の営みと心～

- ① 史跡の本質的価値を適切に保存し、次世代へ確実に継承する。
- ② 地域の学習・交流拠点として、「地域づくり・人づくり」を推進する。
- ③ 亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚の一体的整備を推進する。
- ④ 史跡の確実な保存管理および継続的な活用のための体制づくりを推進する。

### 第2節 基本方針

#### (1) 地下遺構・遺物の保存

丘陵上や斜面地、また豊富な遺物を包含する亀ヶ岡石器時代遺跡の低湿地について、確実に遺構・遺物を保存する。盛土等による保存のほか、低湿地については保存科学の視点から地下水を含む保存環境の保全に努める。

#### (2) 遺跡・遺構の表現

整備対象とする時期は、それぞれの遺跡の特徴を最も表現できる時期とする。亀ヶ岡石器時代遺跡は縄文時代晩期の共同墓地や捨て場（祭祀場）の様相を表現する。また田小屋野貝塚では縄文時代前期の集落構造が体感できる整備とする。

整備対象とする遺構の表現では、両史跡それぞれの特徴を顕在化することにより、時期や性格の違いによる遺跡の在り方が判るような整備を目指す。

さらに、丘陵上では当時の植生環境を体感できるような植生復元を行う。この植栽では、植物遺体の分析等の結果を踏まえて、環境の変遷を表現することや、有用植物を多用することで体験活用に資するものとする。

#### (3) 活用と交流の場の創出

丘陵上の広がりを活かして、集落遺跡ならではの体験活用や、四季に応じたイベント等に用いることのできる広場を設定する。

例えば、道具づくり、収穫・調理体験など、地域住民のみならず、来訪者が誰でも体験できるものや、仮設的な住居づくり体験を地元の学校教育と連携して行うこと、また定期的なイベントを継続することでやがて地元の風物詩となるような祭りなど、多様な活用と交流の場として運営する。

#### (4) ガイダンス施設の新設

両史跡の出土遺物や史跡周辺の古環境情報を展示公開する施設を亀ヶ岡石器時代遺跡の史跡隣接地に新設する。

展示機能のほか、便益機能や体験学習機能を備えた施設とし、遺跡景観に調和した外観の建築を目指す。

### (5) 周辺環境の保全

史跡の周辺は広大な水田が広がる津軽平野であり、適切な解説等により古十三湖を想起することができる。しかしながら、近隣の住宅や電柱・架空線など必ずしも遺跡景観の観点からは好ましくないものもある。

この地域の縄文文化を育んだ自然環境を体感できるよう、地域住民や関係事業者との協働による環境保全を推進する。

他方、両史跡をつなぐ動線については、利用者の安全確保を目的に暫定歩道を設置しているが、周辺環境に調和した歩道の本整備に向けて関係機関と協議を進める。

### (6) 段階的な整備

亀ヶ岡石器時代遺跡では、公有化の進んだ東半を第1期整備の対象とし、西半を第2期整備とする。田小屋野貝塚では、全域を対象に計画する。本計画では、亀ヶ岡石器時代遺跡の第1期範囲および田小屋野貝塚全域を対象にする。

本計画の対象範囲においても、未公有地があることや今後さらに発掘調査を行うことから、公有化や調査の進んだ地点を優先しつつ、中・長期的計画に基づいて全体地域の整備を段階的に実施していく。

整備工事は原則として対象地域を一律の工程で実施するが、盛土および動線整備の完了後は公開を図りながら、植栽、遺構表示、解説板・案内板の設置、便益施設の設置を進めていく。なお、亀ヶ岡石器時代遺跡の沢根低湿地については、盛土等による造成工事を伴わないことから、優先的な整備を検討する。

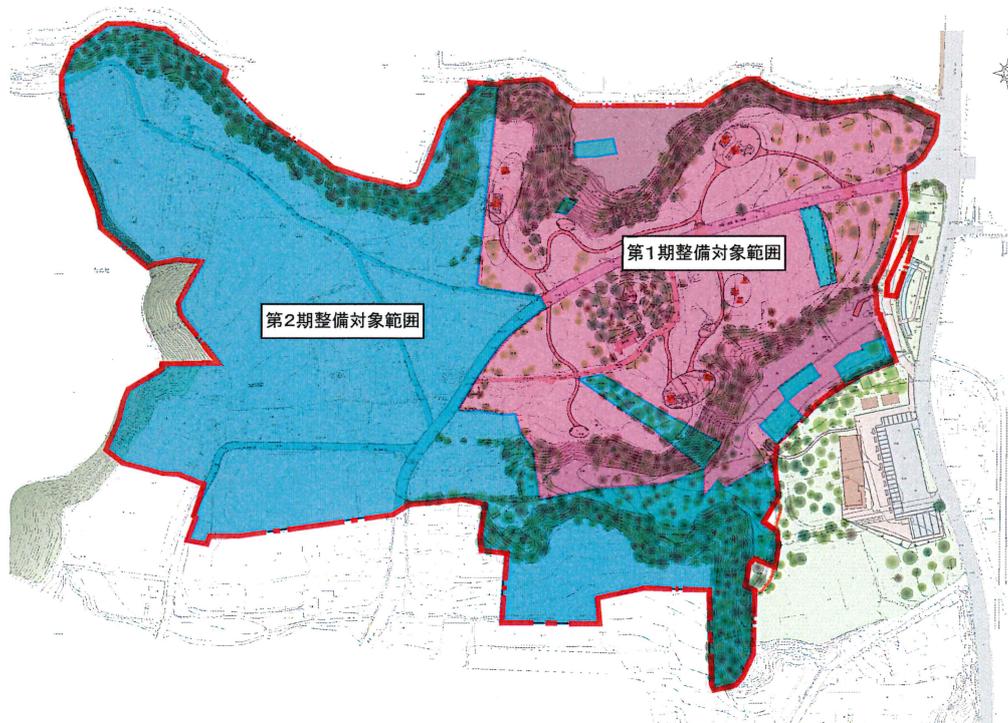


図 53 亀ヶ岡石器時代遺跡整備対象範囲図 (S=1/4000)

## (7) 体制の構築

保存管理を確実に行いつつ史跡の活用・整備を進めていくため、地域住民や遺跡活用団体等と行政の協働は不可欠である。日常的な維持管理に地域住民が関わる体制を新たに作りつつ、引き続き遺跡活用団体・ボランティアガイド・高等学校等と行政の連携による活用を推進していく。

活用体制の安定した継続のためにはボランティアガイドの活動が不可欠である。学習講座等を定期的で開催してガイド登録者の技能向上や新たな担い手の確保に務めるとともに、市内小中学校との連携によるジュニアボランティアガイドの育成を目指していく。

また、史跡の確実な保存管理や周辺地域の景観保全、活用・整備事業の推進のためには、庁内および関係機関との一層の連携も重要となることから、保存活用協議会の設置に取り組んでいく。

## (8) 自然・文化的施設との連携

両史跡の立地する屏風山砂丘地周辺には、ベンセ湿原や出来島埋没林を含む津軽国定公園に代表される豊かな自然環境がある。この地域の縄文文化を育んだ自然環境に対する理解を深めつつ、湿原や埋没林等へも来訪できるよう、縄文遺跡案内所や新設するガイダンス施設において案内誘導を充実させていく。

また、関連文化施設として市街地にある縄文住居展示資料館カルコや、史跡に近い木造亀ヶ岡考古資料室、市域南部に森田歴史民俗資料館があり、両史跡の出土資料や市内の縄文文化に関する展示を行っているが、各施設は離れており、縄文住居展示資料館カルコと森田歴史民俗資料館は史跡から遠方に所在する。

既存の資料館については、新設する史跡のガイダンス施設、さらには市街地への建設が構想される博物館との機能分担や統廃合も視野に総合的なネットワークを構築し、関連施設の周遊および市内観光施設への誘導を促進していく。

さらに、両史跡とともに世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」を構成する遺跡公開施設との活用に関するネットワークを充実させていく。